

各 位

令和8年度稲作情報 第9号について

このことについて、送付しますので業務及び水稻栽培の参考にしてください。

令和8年度 稲作情報 第9号

唐津農林事務所 東松浦農業振興センター長

1 気象概況(観測点:唐津アメダスデータ)

※表記方法:6 半旬別(1ヶ月を6 分割。1 半旬は1～5 日となります。)

気温:平均 降水量・日照時間:合計

※平年値:平成22年～令和2年(11か年)の平均値

月	半旬	平均気温 (℃)		最高気温 (℃)		最低気温 (℃)		降水量 (mm)		日照時間 (h)	
		平年	R8	平年	R8	平年	R8	平年	R8	平年	R8
6	2	21.4	21.1	25.4	25.2	18.2	17.4	27.2	13.5	24.5	31.2
	3	21.9	22.0	25.7	27.9	19.0	17.3	40.5	0.0	22.3	40.1
	4	22.4	24.6	26.1	29.2	19.6	21.4	54.5	26.0	20.6	11.4
	5	23.0	21.9	26.6	24.4	20.4	20.4	65.1	217.5	17.8	6.1
	6	23.9	22.0	27.3	26.2	21.3	19.3	73.6	63.5	14.8	25.9
7	1	24.7	23.9	28.0	27.6	22.2	21.2	87.3	252.5	15.2	9.5

7 月 1 半旬の平均気温は平年より1℃程度低かった。1 日あたり70mm 以上の大雨が続き、降水量は平年の3 倍と多く、日照時間は平年の6 割と短かった。

2 生育状況

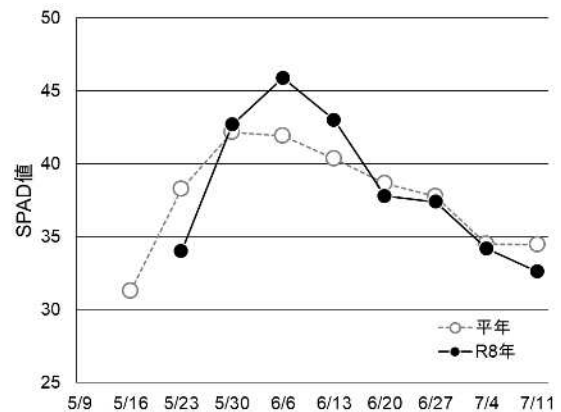
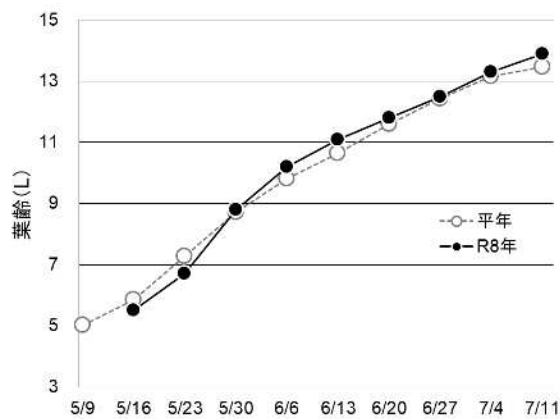
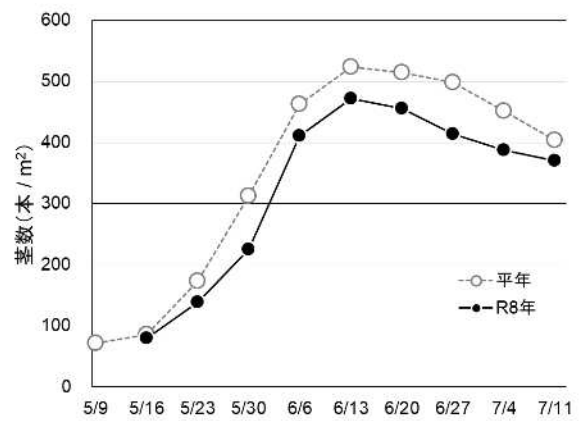
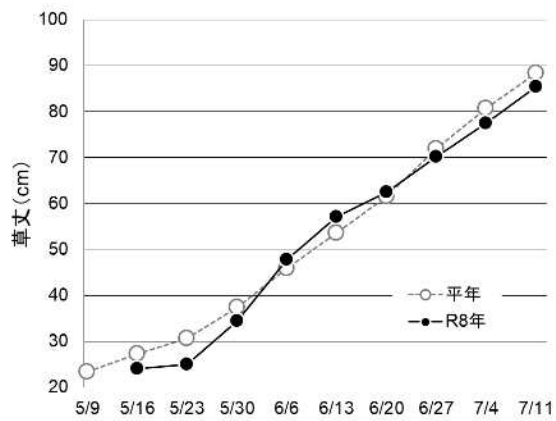
上場コシヒカリ情報田調査結果 鎮西町潟 4 月 24 日移植 18.3 株/m²(60 株/坪)

(7月7日調査結果)

項目	本年	前年	平年	前年差	平年差	備考
草丈(cm)	85.4	87.2	88.4	98	97	やや低い
茎数(本/m ²)	370	410	404	90	92	少ない
葉齡(L)	13.9	13.8	13.5	0.1	0.4	早い
葉色(SPAD)	32.6 ^注	30.1 ^注	34.8 ^注	2.5	-2.2	やや淡い
葉色(葉色板)	2.4	2.8	3.2	-0.4	-0.8	淡い
止葉葉位(L)	13.9	14.0	13.4	-0.1	0.5	高い

※平年値:令和元年～令和7年までの値から最高・最低値を除いた平均値

注) 止葉で計測



草丈は平年よりやや低く推移している。茎数は最高分げつ期以降緩やかに減少し、平年の 9 割となっている。止葉葉位は 13.9L となり、出葉数は平年より多くなった。葉色 (SPAD) は平年より淡く推移している。情報田では既に出穂している株もみられ、数日中に出穂期を迎える見込み。

(参考:情報田平年値)

出穂期:7月9日 成熟期:8月13日

3 今後の管理について

(1)水管理

- ・出穂前後(穂ばらみ期～穂ぞろい期)は最も水を必要とするため、間断灌水を継続するか浅水管理としてください。中干しが十分でなかった圃場では、落水期間を長くして地面を固めてください。台風接近時は稲体の水分収奪や稲体の動揺による茎葉の損傷を軽減するために深水としてください。穂ぞろい期以降は間断灌水にします。
- ・5月中旬以降に移植された圃場では幼穂形成期を迎えています。間断灌水を行いましょう。
- ・今後も高温が続き、収穫期が早まる可能性があります。適期を逃さないために圃場をこまめに確認しましょう。



間断灌水

(2)病虫害防除

①斑点米カメムシ類

- ・農業技術防除センターから斑点米カメムシ類の病虫害注意報が発出されています。管内でも平年より多く確認されている地域がありますので、以下対策を徹底してください。
- ・畦畔雑草は斑点米カメムシの増殖・飛来源となります。出穂 10 日前まで(止め葉が完全に抽出する前まで)に除草を行いましょう。出穂直前以降に除草を行うと、畦畔に生息する斑点米カメムシが圃場内に移動し被害が助長されます。
- ・出穂 10～15 日後(乳熟期)に薬剤防除を行ってください。発生が多い場合は穂揃い期と乳熟期の 2 回防除を実施してください。なお、スタークル豆つぶを使用する場合は、吸収されるまでに時間がかかるため、出穂 7～10 日後に湛水状態で散布してください。

②イネカメムシ

- ・近年イネカメムシによる被害が増加しています。特に周辺より出穂が早い、または遅い圃場に飛来が集中するため、発生状況を観察し、早期発見に努めてください。発生がみられた圃場では、斑点米カメムシ類を対象とした上記防除に加え、出穂期の防除を徹底してください。



ホソハリカメムシ



クモヘリカメムシ



アカスジカスミカメ



イネカメムシ

③ウンカ類

- ・農業技術防除センターが 6 月に行った定期調査では平年よりやや少ない発生となっていますが、今後の発生状況によって臨機防除が必要となります。田回りを行い発生状況に注意してください。

④紋枯病

- ・前年に紋枯病が発生した圃場では菌核が圃場に残り、本年も発生する恐れがあります。発生を認めた場合は、薬剤防除を実施してください。なお、使用時期や使用回数は薬剤によって異なるため、必ずラベルを確認してください。



紋枯病

⑤穂いもち

- ・出穂前後に曇雨天が続くと穂いもちが発生しやすくなります。止葉や上位葉に病斑が見られる場合は、穂ばらみ期(出穂前)に薬剤防除を行ってください。

※散布にあたっては薬剤の使用時期を十分に確認してください。

※佐賀県特別栽培農産物表示制度に取り組んでいる圃場では、使用可能な薬剤の成分数に上限があるので注意してください。

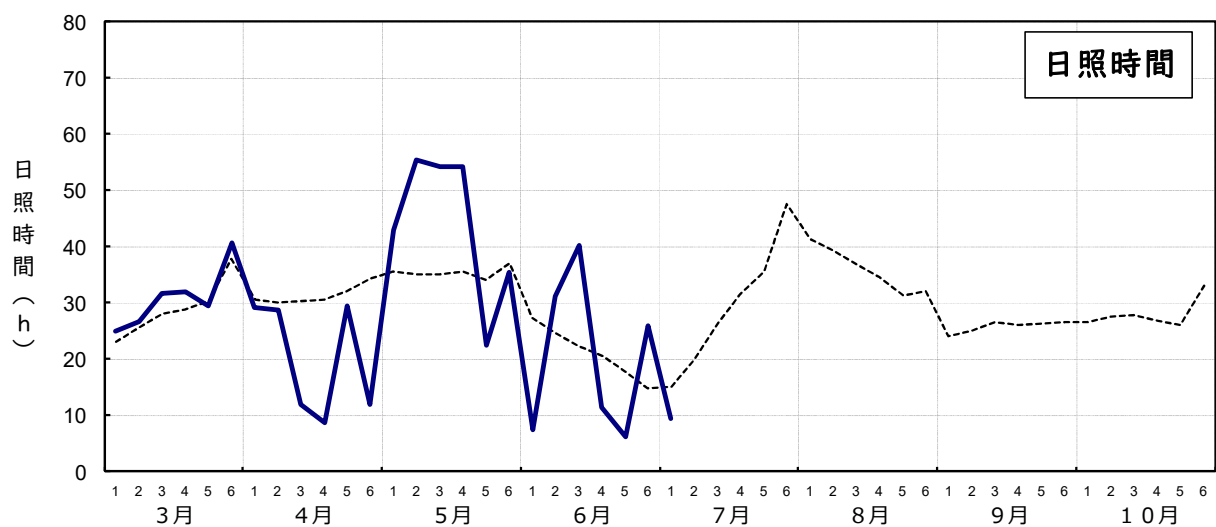
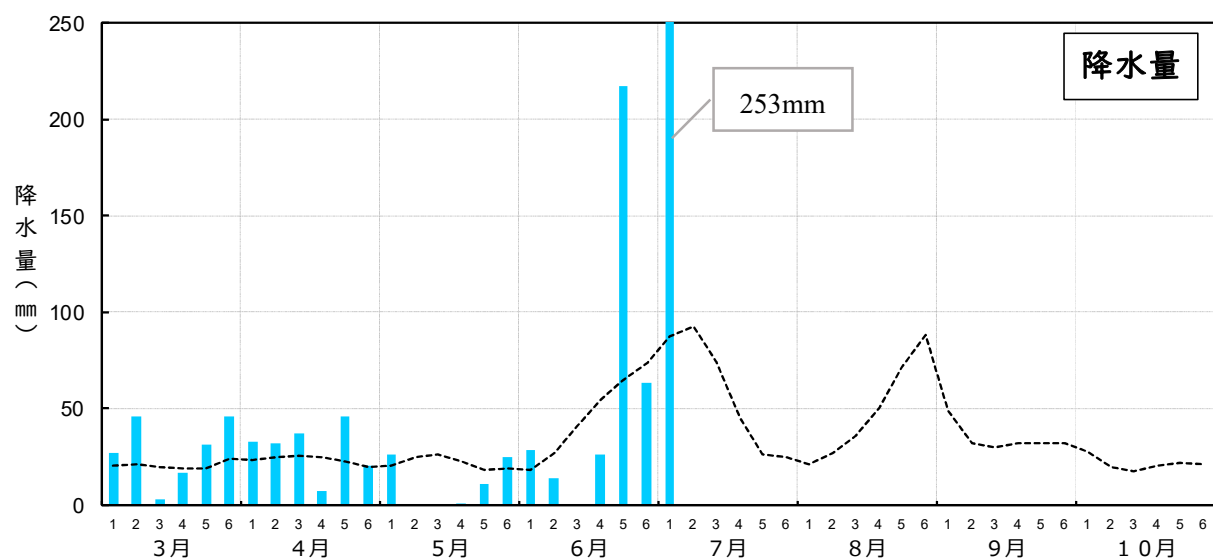
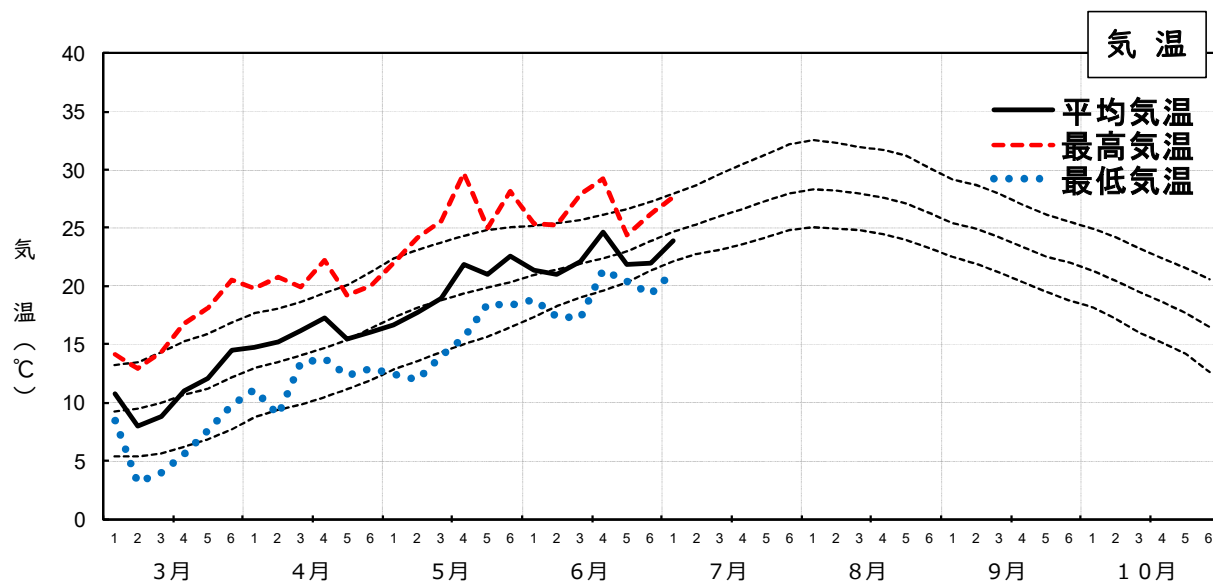


穂いもち

いもち病防除薬剤

薬剤名 (成分名)	本剤の 使用回数	本成分の総使用回数	使用時期	注意事項
ダブルカット 粉剤3DL (カスガ マイシ・トリシラゾール)	2回以内	カスガ マイシ：本田2回以内 トリシラゾール：本田3回以内	穂ぞろい期まで	
トライK粉剤DL (エチブ ロール・テブ フロキン)	2回以内	エチブ ロール：2回以内 テブ フロキン：2回以内	収穫14日前まで	
ブラシン粉剤DL (フェリムグン・フサライド)	2回以内	フェリムグン：2回以内 フサライド：3回以内	収穫7日前まで	たばこ・大豆・小豆等にかからないように注意

令和8年産 水稻作付期間気象図 アメダス観測値(唐津)



注) 平年値: 平成22年～令和2年の平均値

コシヒカリ刈取目安(平均気温積算表)

刈取適期(枝去木): 出穂後31～36日(積算気温860～1020℃)

令和8年7月7日作成

東松浦農業振興センター 上場普及課

※唐津アメダスデータを使用

月	日	平年	本年	移植時期(上段)と出穂期(下段)				
				4月17日	4月20日	4月24日	4月31日	5月5日
				7月3日	7月6日	7月9日	7月11日	7月14日
7	3	24.7	23.1	出穂期				
	4	24.8	25.4	48.5				
	5	25.0	24.8	73.3				
	6	25.1	26.1	99.4	出穂期			
	7	25.2		124.6	50.3			
	8	25.3		149.9	75.6			
	9	25.5		175.4	101.1	出穂期		
	10	25.6		201.0	126.7	51.1		
	11	25.7		226.7	152.4	76.8	出穂期	
	12	25.8		252.5	178.2	102.6	51.5	
	13	26.0		278.5	204.2	128.6	77.5	
	14	26.1		304.6	230.3	154.7	103.6	出穂期
	15	26.2		330.8	256.5	180.9	129.8	52.3
	16	26.3		357.1	282.8	207.2	156.1	78.6
	17	26.5		383.6	309.3	233.7	182.6	105.1
	18	26.6		410.2	335.9	260.3	209.2	131.7
	19	26.7		436.9	362.6	287.0	235.9	158.4
	20	26.9		463.8	389.5	313.9	262.8	185.3
	21	27.0		490.8	416.5	340.9	289.8	212.3
	22	27.2		518.0	443.7	368.1	317.0	239.5
	23	27.3		545.3	471.0	395.4	344.3	266.8
	24	27.5		572.8	498.5	422.9	371.8	294.3
	25	27.6		600.4	526.1	450.5	399.4	321.9
	26	27.7		628.1	553.8	478.2	427.1	349.6
	27	27.9		656.0	581.7	506.1	455.0	377.5
	28	28.0		684.0	609.7	534.1	483.0	405.5
	29	28.1		712.1	637.8	562.2	511.1	433.6
	30	28.1		740.2	665.9	590.3	539.2	461.7
	31	28.2		768.4	694.1	618.5	567.4	489.9
8	1	28.2		796.6	722.3	646.7	595.6	518.1
	2	28.3		824.9	750.6	675.0	623.9	546.4
	3	28.3		853.2	778.9	703.3	652.2	574.7
	4	28.3		881.5	807.2	731.6	680.5	603.0
	5	28.3		909.8	835.5	759.9	708.8	631.3
	6	28.2		938.0	863.7	788.1	737.0	659.5
	7	28.2		966.2	891.9	816.3	765.2	687.7
	8	28.2		994.4	920.1	844.5	793.4	715.9
	9	28.1		1022.5	948.2	872.6	821.5	744.0
	10	28.1		1050.6	976.3	900.7	849.6	772.1
	11	28.0		1078.6	1004.3	928.7	877.6	800.1
	12	28.0		1106.6	1032.3	956.7	905.6	828.1
	13	27.9		1134.5	1060.2	984.6	933.5	856.0
	14	27.8		1162.3	1088.0	1012.4	961.3	883.8
	15	27.8		1190.1	1115.8	1040.2	989.1	911.6
	16	27.7		1217.8	1143.5	1067.9	1016.8	939.3
	17	27.7		1245.5	1171.2	1095.6	1044.5	967.0
	18	27.6		1273.1	1198.8	1123.2	1072.1	994.6
	19	27.5		1300.6	1226.3	1150.7	1099.6	1022.1
	20	27.4		1328.0	1253.7	1178.1	1127.0	1049.5
	21	27.3		1355.3	1281.0	1205.4	1154.3	1076.8
	22	27.2		1382.5	1308.2	1232.6	1181.5	1104.0
	23	27.1		1409.6	1335.3	1259.7	1208.6	1131.1
	24	26.9		1436.5	1362.2	1286.6	1235.5	1158.0
	25	26.8		1463.3	1389.0	1313.4	1262.3	1184.8
	26	26.7		1490.0	1415.7	1340.1	1289.0	1211.5
	27	26.5		1516.5	1442.2	1366.6	1315.5	1238.0
	28	26.3		1542.8	1468.5	1392.9	1341.8	1264.3
	29	26.2		1569.0	1494.7	1419.1	1368.0	1290.5
	30	26.0		1595.0	1520.7	1445.1	1394.0	1316.5
	31	25.9		1620.9	1546.6	1471.0	1419.9	1342.4

※ は刈り取り時期の目安を示す。

※ 刈り取り時期は目安なので実際に稲の黄化を確認して収穫時期を決める。

今後の管理

- 1 根の活性化のため間断灌水(湛水し水が無くなったら2～3日干して入水の繰り返し)とする。収穫の際、コンバインが入れないと想定されるくらい田面が緩い圃場では、早期落水はせず、間断灌水の落水時期を長めにとり田面を固める。
- 2 早期落水による凋落が一部圃場で見られるため最後まで入水(走り水)を行い土壌は黒乾状態を保つ。
- 3 早刈りをすると青米や未熟粒が多くなり、収量・品質が低下するので、稲の黄化が90%以上になるのを待って収穫する。